

## 今渡地区懇談会（市長と語る会）での主な意見と回答

日 時 平成26年6月28日（土）午前10時～午前11時50分  
場 所 今渡公民館  
出席者 28人

- 市長による講演「超高齢社会を乗り切る“まちづくり”」が行われ、その後、質疑応答が行われました。

【質問】市有施設の耐震化はどのくらい進んでいるか。

【回答】市の公共施設の天井材などを除いた躯体そのものは、すべて耐震化が進んでいます。先程の講演の表には水道、下水、道路橋梁は含まれていません。大地震が起きて水道管が破断するのはやむを得ないのですが、施設が倒壊すると復旧に時間がかかるため、今年から5年間集中的に水道施設の耐震化を進めます。

【質問】先日敬老会である、すみよし会が高齢化と新規会員がないという理由で、今年度をもって休止することが決まった。この問題の解決策として、他地区の類似団体の成功例や市からの助言などがあれば教えていただきたい。

【回答】様々な団体があるので敬老会に限らず何か他の団体に入ってもらうのも一つの手ですが、高齢福祉課に相談すれば事例紹介や助言等させていただきます。

【質問】蘇南中学校は県下最大級のマンモス校だが、今渡地区に児童センターが無い。児童センター設置についての基準等はあるのか。

【回答】基準はありません。市の東西と真ん中で3カ所設置しています。なお、可児駅前に設置予定の拠点施設は、駐車場も整備し、名鉄電車にも乗って行くことができます。現在、名鉄広見線が問題になっており、犬山から新可児間については、「今は大丈夫」と名鉄側から聞いています。しかし、主に西可児地域の利用者が急激に減っており、今後問題になるかもしれないので、できるだけ名鉄を利用して新可児駅まで行っていただきたいです。

【質問】社会貢献システムに関連して、ここにいる各種団体に活躍されている方々に、活動の状況に応じてポイントを付与し、例えば老人福祉施設等に優先的に入所できるなどの制度を設けてほしい。

【回答】施設入所は法律で決められているので、ボランティアをした方から順番にとはいきません。現在、市の財源が少ない中で、あまり税金を使わずに社会貢献できるよう考えられた仕組みが地域支え愛ポイント制度です。この制度は、現在ボランティアの対象を「子育て世代の安心づくり」と「高齢者の安気づくり」に限定し、まずは3年間試験的に実施する予定です。また、ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）についてですが、可児市は金額、件数とも県内3位で、毎年3千万円以上納税していただいています。時間がなくてボランティアはできないけれど、可児市を応援する気持ちがあり、ふるさと応援寄付金を通じてボランティアのポイント制度を支援するという方法もあります。

ふるさと納税は、可児市の方もできます。納税者も、市も、特産物を作っている人も、損はしません。ぜひ寄付をしていただきたいです。